

瀬戸内海同時多発スポーツごみ拾い&オリーブフォーラム (海と日本 2020) 実施報告書

事業ID：2019523099

事業名：瀬戸内海同時多発スポーツごみ拾い&オリーブフォーラム(海と日本 2020)

団体名：特定非営利活動法人瀬戸内オリーブ基金

1 概要

瀬戸内海エリアにおいて海洋ごみ問題に取り組むリーダーを育成するとともに、スポーツごみ拾いの手法を使い、幅広い市民の参加を通して海ごみ問題に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の影響で事業名に上げた「同時多発」はならなかったが、複数の講座開催と実践に取り組むことができた。

主な実施項目は次の通り。

- オリーブフォーラム 2020 in 小豆島兼海ごみリーダー育成講習会（第2章で報告）
- 瀬戸内海エリアスポーツごみ拾い実施（5か所・模擬開催を含むと6か所）（第3章で報告）
- オリーブフォーラム 2020 in 岡山（第4章で報告）

2 オリーブフォーラム 2020in 小豆島兼海ごみリーダー育成講習会(9月開催)

2.1 概要

名称：オリーブフォーラム 2020in 小豆島 - 島の生活から使い捨て社会を考える -

開催日：9月12日（土）～13日（日）

場所：小豆島・土庄町中央公民館大ホール（13日は中ホールと土庄町市街地）

主催：NPO 法人瀬戸内オリーブ基金／小豆島環境とくらしの連絡会¹

後援：土庄町／小豆島町

参加者数：公開フォーラムが約80人／海ごみリーダー育成講習会が24人

概要：

瀬戸内海エリアで海ごみをテーマに活動している団体から参加者を募り、小豆島で1泊2日の日程で海ごみに関するリーダーを育成する講習会を開催した。講義の一部を「オリーブフォーラム 2020 in 小豆島」として、地元住民誰もが参加できる公開講座とした。

¹ 公開フォーラム部分

2.2 プログラム

■第1部 市民講座

13:00～15:00

〔講演〕 原田禎夫（大阪商業大学）

〔講演テーマ〕 未来のために知っておきたい海とプラスチックの話

終了後質疑応答

■第2部 海ごみリーダー育成講習会（1日目）

15:10～16:50

〔講義〕 スポーツごみ拾い講習

〔講師〕 馬見塚健一（一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ）

17:00～18:30

〔講義〕 先行事例に学ぶ

〔講師〕 古澤純一郎（NPO 法人海さくら）

■第2部 海ごみリーダー育成講習会（2日目）

9:00～11:30

〔実習〕 スポーツごみ拾い模擬実施（講習と実践）

〔講師〕 馬見塚健一（一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ）

2.3 市民講座実施状況と講義概要

■実施状況

新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、小豆島住民（土庄町と小豆島町の2町）を中心に約80名が出席した。講師の原田禎夫氏は京都府亀岡市の「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」や「プラスチック製レジ袋提供禁止条例」に中心的に関わり、日本各地で使い捨てプラスチックごみ削減について講演をしている。小豆島での講演では、米国等海外の事例を中心に映像資料を使いプラスチックごみの何が問題なのかについてわかりやすく解説した。質疑応答も時間を超えて続いた。地元の高校生2グループ・5人が参加したことも、将来のことを考えると頼もしいことであった。高校生グループの内、1グループ3人は引き続きリーダー講習会にも参加することになった。参加者は主催者側関係者を含めて約80人であるが、小豆島で開催される環境関連のイベントとしては多数である。この他に、Zoom中継での参加者が約10名いた。

新型コロナウイルス感染症対策として、会場を土庄町中央公民館の中ホールから大ホールに変更したり、Zoomを使った中継を行ったりした。このことで費用も嵩んだ。運営に当たっては地元の環境団体と町議会議員の協力を得た。

司会是小豆島で地域活性化活動を手掛けている（株）DaRETOの城石果純氏が務めた。

■講義概要（補足ヒアリングを含む）

アメリカの事例・・・アメリカでは、ペットボトルのデポジット機があったり、使い捨て食器が紙になったり、使い捨て容器に対する意識が急速に変化している。アメリカのスーパーではフィルム包装された果物などは見かけない。

- 2015年ハワイ州がアメリカで最初にレジ袋禁止になった。
- ニューヨークでは発泡スチロール容器が禁止になり、ほとんどが再生紙を利用している。使用すると罰金が科せられる。
- 容器を紙に置き換えたら、森林資源はどうなるのかといった議論が出るが、ホットドッグは容器を使用せず紙で包むだけになった。
- アメリカの学校給食では使い捨て容器が多く使われている。紙の容器は割高だが、全米の複数都市が一斉に紙の容器に変更したところ、紙の容器の値段が下がった。

台湾の事例・・・アジアでも動きはあり、台湾はアジアで一番早くサーキュラーエコノミーという政策を掲げた。アメリカで使われている紙製の食器の多くは台湾であり、新しいビジネスが起こっている。

南太平洋島嶼部の事例・・・南太平洋島嶼部に漂着するプラスチックを海鳥が食べてしまう。親鳥は雛にもエサとしてプラスチックごみを与え、多くの鳥が死んでいる。（ビデオで悲惨な状況が示された）



写真：原田氏講演（土庄町中央公民館大ホール）

2.4 海ごみリーダー育成講習会状況

成果としては、瀬戸内海エリアで活動している海ごみ団体及びこれから海ごみに取り組もうとしている団体からの参加があったことである。次に示す。

県名	団体名	主な活動地域
岡山	NPO 法人グリーンパートナー岡山	岡山市の市街地・島嶼部／備前市日生地区／瀬戸大橋沿いの島嶼／笠岡市島嶼部
岡山	岡山パールライオンズクラブ	岡山市内
徳島	NPO 法人アユートネットワーク	徳島県内の国道 11 号線沿いの海岸線
香川	海守さぬき会（高松市松島地区コミュニティ協議会スポごみ実行委員会）	高松市内の市街地・河川敷・島嶼部／香川県中讃地域島嶼部（与島・岩黒島・牛島他）
香川	NPO 法人ハイフォローステーション	男木島
香川	四国夢中人	手島
香川	関係案内人海ノ流木	小豆島
愛媛	ビーチクリーンしまなみ	今治市内の海岸／しまなみ海道の島嶼
愛媛	吉田の海クリーンアップ大作戦事務局（NPO 法人宇和島ボランティアセンター）	宇和海沿いの海岸線
愛媛	北条ブルーレンジャー	松山市北条地区の海岸線

受講者数：24 名（+当日参加 5 名）

- 公開講演会の参加者の中で講演を聞き海ごみに対する関心を強め、本来は事前申込者だけを対象としていた海ごみリーダー育成講習会も引き続き受講した人がいた。内、4 名は 2 日目の講義にも参加した（1 名は子どもを連れてきたのであわせて 5 名）。



写真：馬見塚氏講義（土庄町中央公民館大ホール）

2.4.1 講義概要

講義名	講師	概要
講義1： スポーツごみ拾い講習	馬見塚健一（一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ）	本講義のために制作した「運営マニュアル」を元に講義を行った。 スポーツごみ拾いを実施するために必要な「運営フロー」「競技エリア」「ルール案」「注意事項」「緊急連絡体制」「備品」について学んだ。 運営マニュアルを別添する。
講義2： 先行事例に学ぶ	古澤純一郎（NPO法人海さくら）	NPO法人海さくらは「目指せ！日本一楽しいごみ拾いへの挑戦」をテーマとして活動している。海さくらが神奈川県藤沢市江ノ島海岸で実施している活動を事例として、幅広く市民を巻き込んでいく考え方について学んだ。
講義3： スポーツごみ拾い模擬実施（講義と実践）	馬見塚健一（一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ）	スポーツごみ拾いの模擬実施を通して、実施時の手順をひとつひとつ確認した。参加者を5チームに編成して、実際に市街地に出て、ごみ拾いも実施した。

2.4.2 講義写真



写真：講義 3 受講者



写真：講義3 講師



写真：講義3 模擬実施

2.4.3 その他

「運営マニュアル」を成果物のひとつとして別添する。

3 瀬戸内海エリアスポーツごみ拾い実施（10～12月開催）

瀬戸内海エリアの5か所でスポーツごみ拾いを実施した²。当初計画では瀬戸内海エリア各地で「同時多発」として開催することにより、インパクトを与える考えであったが、新型コロナウイルス感染症のために同時多発は実現せず、10月から12月にかけて分散開催した。概要を以下に示す。

² 「スポーツごみ拾い」自体の説明は本報告書では省略する。

開催日	大会名	開催場所	開催団体	動員 人数 ³
10月11日 (日)	スポーツごみ拾い in 唐子浜	愛媛県今治市 唐子浜	ビーチクリーンしまなみ	93
10月17日 (土)	スポーツごみ拾い in 岡山	岡山市北区津 高地区	NPO 法人グリーンパート ナー岡山	47
10月25日 (日)	スポーツごみ拾い in 岡山市善隣館	岡山市善隣館	岡山パールライオンズクラ ブ	21
11月14日 (土)	吉田の海、スポ GOMI 大作戦	愛媛県宇和島 市吉田町白浦 海岸	宇和島 NPO センター	66
12月13日 (日)	スポーツごみ拾い in 高松第一	高松市松島地 区	高松市松島地区コミュニテ ィ協議会スポごみ実行委員 会	68

この他に小豆島で模擬大会を実施している。

3.1 スポーツごみ拾い in 唐子浜

日時：10月11日（日）9:55～10:55（競技時間）

場所：今治市・唐子浜

参加者：93名

拾ったごみの量：248.775kg

（内訳）

燃えるごみ：159.42kg

燃えないごみ：69.04kg

ペットボトル：9.815kg

カキパイプ：10.5kg

チーム順位

1位：ほんむすび 2位：チームからり 3位：チーム今治青年会議所（JC）

実施状況：

台風後のため多くのごみが砂浜に漂着していた。参加者は地元企業、海洋少年団、JC、短期大学、留学生など多様な人たちが参加し、スポーツを取り入れたごみ拾いということで楽しみながら実施することができました。地元企業から多くの協賛商品を提供していただいた。今回の協力関係を継続していきたい。日本財団から支援を受けて活動している「熱源キ

³ スタッフを含まない。

「ヤラバン」が取材を兼ねて参加していた。



3.2 スポーツごみ拾い in 岡山

日時：2020年10月17日（土）10：00～11：30

集合場所：岡山市北区富原 3780-6 オートセンター天満

ごみ収集範囲：岡山市北区津高地区（集合場所の北 450m、南 700m、東 300m、西 100m）

参加チーム・参加者：10 チーム・47 人（他にスタッフ 10 人）

拾ったごみの量：54.9 kg

（内訳）

燃えるごみ：39.7kg

燃えないごみ：2.4kg

ビン・缶：7.9kg

ペットボトル：2.7kg

たばこ吸い殻：2.2kg

実施状況：

開催団体はNPO法人グリーンパートナーおかやまで、海ごみに関する活動では岡山県でも主導的に活動している団体である。

当日はあいにくの雨模様で参加者が集まるのかどうか心配もしたが、予想を超える10チームが参加した。海ごみゼロにかける市民の姿勢に驚いた。

会場は地元の自動車関連会社から、隣接する食品スーパーからはお茶とカルピスを提供いただいた。市民と企業が協力し合い活動を実現した。

雨の中集めたごみは約54kgに達した。一見きれいに見える道路でしたが、溝などにたまっていました。





3.3 スポーツごみ拾い in 岡山市善隣館

日時：10月25日（土）10：00～12：00

場所：岡山市善隣館

ごみ拾い場所：岡山市百間川沿い

参加チーム・参加者：5チーム・21人（他にスタッフ）

拾ったごみの量：4.5kg

（内訳）

燃えるごみ：2.2kg

燃えないごみ：0.2kg

ビン・缶：1.3kg

ペットボトル：0.4kg

たばこ吸い殻：0.4kg

実施状況：

善隣館は岡山市が運営する児童養護施設です。開催団体である岡山パールライオンズクラブは、これまでも施設の応援を続けてきており、例年秋のレクリエーションにはボーリング大会を実施してきた。今年は瀬戸内オーリーブ基金の呼びかけに応じてスポーツごみ拾いを開催した。施設の子どもたち、先生方、ライオンズクラブのみなさんが5チームに分かれて、近くの百間川沿いでごみ拾いをしました。参加者の評判も良く、今後もスポーツごみ拾いを実施したいとのことだった。レクリエーションがボーリングからごみ拾いに変わるという時代の変化を象徴した活動となった。

(注) 児童養護施設のため撮影に制限があり、集合写真の公開ができません。ご了承ください。





3.4 吉田の海、スポ GOMI 大作戦

日時：11月14日（土）10：15～12：15

場所：愛媛県宇和島市吉田町白浦海岸沿い

参加チーム・参加者：11チーム＋α・66人（他にスタッフ）

拾ったごみの量：110kg

実施状況：

ごみがなさそうに見えた浜や海岸線でも、多くのごみが埋まっていた。地域の人も多く参加した。ごみ拾いイベントを実施しなくても、自発的に清掃したり、ごみの発生原因を市民全員で考えたりする流れに、今回のスポーツごみ拾いがきっかけとなることを期待している。

「楽しい×ごみ拾い」という、これまでになかった発想で、地域の方のみならず、企画を知った周りの方からも、「やってみたい」という声が上がった。今後も実施したい。未就学児から大人まで幅広い世代が交流した。宇和島市の協力もあり、市議会議員らとともに「マイクロプラスチック」についての説明も行い、回収方法についてもレクチャーした。





3.5 スポーツごみ拾い in 高松第一

日時：11月14日（土）10：15～12：15

場所：高松市高松第一学園

ごみ拾い場所：高松市松島地区

参加チーム・参加者：?チーム・約80人（他にスタッフ）

拾ったごみの量：約30kg

実施状況：

高松市松島地区は高松市の中でも人口の多い住宅地であるが、地域コミュニティのイベントには10名程度しか集まらないことも多い。そのような中でスポーツごみ拾いには約80名もの参加者があり、スタッフを含めると100名規模になった。スポーツごみ拾いは、ごみを拾うだけでなく、地域行事としても有効な手段であることが推察される。外で開催できるので新型コロナウイルス感染症の時代に実施しやすい。街がきれいになり、自分が住む地区と環境について考えるきっかけとなる。開催費用も安く、継続して実施したいとの声があった。





4 オリーブフォーラム 2020 in 岡山（11月開催）

9月に小豆島で開催したフォーラム兼海ごみリーダー育成講習会と各地区での実施を元に得られた所見を共有するために、岡山でフォーラムを開催した。海ごみリーダー育成関係者だけを対象とするのではなく、持続可能な社会を考える場として実施した。

■ねらい

- 基調講演に同志社大学名誉教授の郡嶋孝先生を講師として呼び、持続可能な社会について市民とともに考える場を設ける。
- 9月に実施した「海ごみリーダー育成講習会」の受講団体のうち、愛媛県今治市の団体「ビーチクリーンしまなみ」が、先行してスポーツごみ拾いを開催した。この事例を共有する。
- レジ袋等使い捨てプラスチック容器対策で先駆的な活動をしている京都府亀岡市から「川と海つながり共創プロジェクト」の担当者を招き取り組み内容を共有する。

4.1 概要

名称：オリーブフォーラム 2020 in 岡山

開催日：11月21日（土）

場所：岡山国際交流センター・国際会議室

主催：NPO 法人瀬戸内オリーブ基金

参加者数：約 80 人

4.2 プログラム

- 14:00 基調講演：「石油文明との決別 - プラスチックと私たち -」
講師：郡嶋孝（同志社大学名誉教授）
- 15:10 瀬戸内オリーブ基金の海ごみへの取組み（瀬戸内オリーブ基金事務局／伴場一昭）
- 15:15 活動報告・スポーツごみ拾いを事例に（ビーチクリーンしまなみ／春木信二）
- 15:25 京都保津川からの挑戦：内陸部から海ごみを減らそう！（中川眺／亀岡市・川と海
つながり共創プロジェクト）
- 15:35 質疑応答
- 15:45 まとめ
- 16 時から瀬戸内オリーブ基金創立 20 周年記念式典を実施し、瀬戸内オリーブ基金の歩みや国立公園の原状回復事業について報告した。

4.3 基調講演

■郡嶋孝先生プロフィール

同志社大学経済学部で教授、評議員、経済学部長を歴任。経済産業省の産業構造審議会環境部会廃棄物・リサイクル小委員会座長として、改正容器包装リサイクル法の成立に尽力、環境保全を考えた経済発展とごみ行政のあり方など、地球環境関する問題に対し、経済学の立場から取り組んでいる。主な著書に「都市生活の経済学第 2 版（ミネルバ書房）」、「リサイクル時代のごみ行政（自治体研究社）」⁴などがある。

■骨子

石油文明と決別し脱石油文明に向けた動きは以前からあった。ここにコロナ問題が地球を覆った。ウイルスは人間の自然破壊・資源収奪に起因している。ポストコロナは石油文明のリセットが必須であり、プラスチック問題は鍵を握る。コロナ以前から、プラスチック問題は顕在化し、米国・EU・中国等それぞれに手は打ってきていた。パンデミックは環境・経済・社会・公衆衛生の複合問題であるので、パンデミック対策とポストコロナのためにも、プラスチック問題への対処は避けられない。3R はコロナ以前の定義であるが、reduce としての植物由来包装、reuse としてのテイクアウト容器の再使用ビジネス、Loop システム、リフィルステーション、recycle としての自動回収、ケミカルリサイクルといった、3R の復活には意義がある。「断る勇気と減らす努力」は必要。

⁴ いずれも共著。



4.4 ビーチクリーンしまなみ報告記録（スポーツごみ拾い実施の共有も兼ねて） 報告者：春木信二（ビーチクリーンしまなみ）

海岸漂着ごみ回収のコツは「楽しみを作ってコツコツやる」こと。ごみ拾いのイベントに勧誘しても、何のメリットがあるのか説得するのは難しい。ビーチクリーンしまなみでは、“See, Enjoy & Act”を活動理念としている。コミュニティ放送局「FM ラヂオバリバリ」を中心に多様な職業を持つ人材でイベント企画をしている。例としては、「ビーチクリーン×太極拳」「ビーチクリーン×緑を食べる」「ビーチクリーン×スポーツ」「ビーチクリーン×ごみコンテスト」「ビーチクリーン×魚市場」「ビーチクリーン×夜の生き物観察」「ビーチクリーン×妄想」「ビーチクリーン×行ったことのない島へ」がある。これらの活動は、過疎に悩む地元の課題解決にもなっている。海岸清掃は未来への選択の積み重ねと言える。楽しく積み重ねていきたい。

■スポーツごみ拾い実践結果の報告⁵

従来市街地で行われていたスポーツごみ拾いを海浜で実施したところ、単なる海岸漂着ごみ拾いと比べ次のような効果があった。

● 動員数が増える

100人近い参加者が集まった。ビーチクリーンしまなみはFM局で海ごみに関する番組を持ち、楽しみと組み合わせたごみ拾いを行うため動員力のある団体であるが、それ

⁵ 当日の発表に加え別途ヒアリングした結果も加えている。

でも 100 人規模のイベントはめったにない。

- 初めての参加者が半数に達する。隣接市からの参加もあった。
- チームで競う楽しさがある。加えて賞品もあるので、参加者のやる気が高い。
- 海岸漂着ごみ特有にごみにフォーカスできる。今回の実施ではカキの養殖パイプに高得点を付けたところ、たくさんの養殖パイプを回収することができた。
- 大量のごみを短時間で回収できる。1 時間の競技時間で約 250kg のごみを拾うことができた。
- このようなことから、市街地で実施されてきたスポーツごみ拾いを海岸で実施する意義と効果が認められる。



4.5 川と海つながり共創プロジェクト骨子

報告者：中川眺（亀岡市環境市民部環境政策課⁶）

京都府亀岡市では「亀岡市第4次総合計画」に漂着ごみに関して、「漂着ごみ等は河川環境や景観、生物の生息環境にも影響を与えており流域の住民、企業、関係団体、NPO、自治体等が連携した発生源対策が必要」と明記した。海岸線を有しない自治体で、漂着物対策を明文化したのは当時亀岡市だけだった。大阪湾まで約 80km あるが、亀岡市のごみが1日で大阪湾まで達することがあり、内陸部からの発生抑制対策が重要である。具現化のため15団体を構成員として「川と海つながり共創プロジェクト」を組織化した。

⁶ 環境政策課が事務局を務めている。

主なプロジェクトの取組み

- こども海ごみ探偵団
市内の小学校3年生～中学校3年生から募集。河川・海岸のごみ清掃・組成分析等を実施する環境教育。調査場所は市内の保津川、舞鶴海岸、成ヶ島（兵庫県）
- 保津川の日
市内最大の河川清掃イベント。屋台や野鳥観察などのイベントも実施。
 - 保津川クリーン大作戦
 - 保津川エコラフティング
 - 保津川凧あげ大会
 - 保津川野鳥観察会
 - 保津川つながりフィールド
 - 保津川エコ屋台

これらの活動をとおして、亀岡市の環境美化に寄与し、河川環境をキーワードにした市民の環境意識の醸成を図ることができる。ひいては都市イメージの向上とにぎわい創りにもつながると考えている。将来的には流域が一体となった事業展開にしたい。亀岡市のプロジェクトが、海洋プラスチック汚染の解決の源流となることに期待を寄せている。



(撮影：川と海つながり共創プロジェクト)

5 制作物一覧⁷

5.1 スポーツごみ拾い関係資料

- スポーツごみ拾い運営マニュアル
海ごみリーダー育成講習会のテキスト
- スポーツごみ拾いシナリオ／小豆島模擬実施用
これをベースに各地区での進行シナリオを作成できる。同一性確保のため使用すること。
- スポーツごみ拾いルールブックひな形
海ごみリーダー育成講習会時に実施した模擬大会のルールブック。これを元に各地区でのルールブックを作成できる。同一性確保のため使用すること。
- 集計表・ひな形
Excelに式を入れてありチーム名とごみの集計結果を入力するとポイントが算出される。入力後ポイント順でソートすると順位がわかる。
- チーム名記入表
受付時に参加者に記入いただく。
- 測定重量記録表
測定結果を記録する。

5.2 チラシ類（助成金により制作したもの）

- オリーブフォーラム 2020 in 小豆島チラシ
- オリーブフォーラム 2020 in 小豆島ポスター
- オリーブフォーラム 2020 in 小豆島入口看板（割愛）
- オリーブフォーラム 2020 in 岡山チラシ
- オリーブフォーラム 2020 in 岡山ステージ横断幕（割愛）

5.3 広報用 Web サイト・地区大会用チラシ

- 地区大会の募集や結果を報告する Web ページを制作しています。
URL：<http://www.teshima-school.jp/oliveforum202009/index.html>
- 提供用チラシひな形
地区大会用の募集チラシのひな型を制作しています。（イラストレーターファイルのため）

⁷ ここでは報告書用として PDF で掲載している。Word、Powerpoint ファイルもあるので地区開催で使用できる。著作権フリーではないので、使用に当たっては確認し許諾を得る必要がある。

め割愛)

以上